

「仙北市国民健康保険事業運営安定化計画」を策定

市民が将来にわたり安心して医療を受けることができる環境づくりを目指して

仙北市の国保は、医療の高度化や加入者の高齢化によって加入者一人当たりの医療費が増え続け、これまでは国保会計の貯金にあたる財政調整基金を取り崩しながら収支の均衡を保ってきましたが、合併以来単年度の赤字が続ぎ、平成22年度で基金が枯渇してしまいました。

そのため、今後は医療費の増加に見合う財源を確保するための国保税の引き上げが避けられない状況にあり、本来、国や県などからの公的支出金

と加入者が納める国保税を財源とする独立採算が基本の国保の運営は、非常に厳しい局面を迎えています。

このような状況が続けば、将来は国保会計の破綻も懸念されることから、仙北市では医療のセーフティネットとしての国保制度を堅持し、将来にわたり市民が安心して医療を受けることができる環境を整備することを目的として「仙北市国民健康保険事業運営安定化計画」を策定しました。

○計画策定の背景 (仙北市国保の現状)

- ・被保険者の高齢化による一人当たり医療費の増加（医療の高度化と生活習慣病の増加）
- ・被保険者数の減少と経済状況の悪化による課税所得の減少 ⇒ 国保税収入の減少
- ・合併以来5年連続単年度の赤字



- ・税金不足を補うため財政調整基金を投入
- ・基金の枯渇⇒医療費の増加＝国保税の上昇
- ・被保険者の税負担が増加

【財政悪化による国保会計破綻の恐れ】

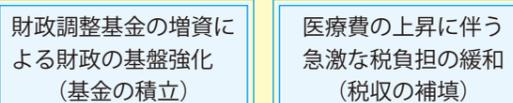
○国保事業の運営安定化に向けた取組み（計画の骨子）

1 財政運営の基本方針

国保税の適正賦課、一般会計繰入れによる財政収支の改善と財政基盤の強化

- ・国保税の適正賦課↓医療費の増加に見合う税率の見直し（毎年度の税率の見直し）
- ・一般会計からの基準外繰入れの実施（計画期間中に毎年度1億円を繰入れ）

一般会計繰入金（1億円）



○計画の期間 平成23年度～平成27年度（5年間）

2 国保税の収納率向上対策

仙北市収納対策計画に基づく具体的取組み

- ・口座振替の促進・夜間納付窓口の開設や夜間訪問徴収の実施
- ・徴収嘱託員による訪問徴収
- ・滞納者の状況把握と短期被保険者証および資格証明証の発行による納税相談の強化
- ・滞納者の財産調査と滞納処分の実施

3 医療費の適正化

資格の管理、レセプト点検、ジェネリック（後発医薬品）の普及促進

- ・被保険者の異動に伴う資格の適正化・重複受診者への受診指導・レセプトの電子化による点検の効率化
- ・交通事故等に係る賠償請求と資格喪失後の受診に係る療養給付費返還請求
- ・安価なジェネリック医薬品の利用促進PR（広報、ジェネリック医薬品利用差額通知の実施）

※本計画書の本編は仙北市のホームページに掲載しているほか、市民課（☎43-3307）にも備え付けていますのでご利用ください。
《パソコンからの計画書のダウンロード方法》仙北市ホームページ→行政情報→行政計画→国民健康保険財政運営安定化計画（PDFファイル）から

4 保健事業の推進

健康づくり、疾病の重症化予防事業による医療費の抑制

- ・特定健康診査、特定保健指導の推進（生活習慣病の原因となる内臓脂肪型肥満の発見と改善）
- ・各種健診の費用助成・人間ドックへの助成・健康づくりの推進（スポーツの奨励、各種健康教室の開催）
- ・幼児の歯の健康指導・幼児期からの食育指導・高齢者介護予防事業

○計画の進行管理

と市民への公表
本計画の進行には、国保加入者に限らずすべての市民のご理解が必要となりますので、あらゆる機会を捉えて計画の内容を公表し、運営状況により計画の修正が行われた場合も速やかにお知らせします。

まちづくり日記

No.23

「元気を出して」

仙北市長 門脇 光浩

「元気を出して」は、竹内まりやさんが30年近く前に書いた曲の題名です。当時は薬師丸ひろ子さんのアルバムに収録されていました。この歌のフレーズに次のような詩があります。

幸せになりたい
気持ちがあるなら
明日を見つけることは
とても簡単

人生はあなたが
思うほど悪くない
早く元気づけて
あの笑顔見せて

失恋をした女性を、親友（女友達？）が慰める名曲です。ちなみにこんな詩もあります。

チャンスは何度でも
訪れてくれるはず
彼だけが男じゃない
気づいて

この歌を、様々な境遇に置き換えてみると…、友達とのケンカ、学校の成績ダウン、仕事上の失敗、家庭内のイザコザ、いろいろ考えられます。でも、みんな、あなたが解決したいと思えば何とかできることです。そのチャンスが、実は何度かあったことも、あなたは分かっていたはずですよ。

3月11日以降、辛い境遇で毎日を生きる被災者は、個人の努力ではどうにもならないことばかりです。それでも炊き出しのボランティアに、「ありがと、美味しいね」と笑顔で応えてくれます。そんな皆さんに、逆に励まされて帰ってきた市民が大勢います。

自然の力には抗えませんが、明る過ぎた夜、行き過ぎた個人主義を反省し、大切な何かに思いを巡らせる時が来ています。
春です。市内は花でいっぱいです。被災地の皆さんと一緒にまちづくりにチャレンジしましょう。

被災地避難所等 支援活動

市民の皆様や団体が支援活動、ボランティア活動など、さまざまな形でご協力をいただいています。厚く御礼申し上げます。一部をご紹介します。



- 4月14日
個人名 藤村春之
支援場所 山田町豊間根保育所、山田第1保育所
支援内容 炊き出し：焼き芋 200食
- 4月19日
団体名 ゲリーツーリズム西木研究会
支援場所 山田町豊間根地区避難所
支援内容 炊き出し：だまこ鍋 ほうれんそう和え物 100食
- 4月19日
団体名 包和会
支援場所 山田第2保育所
支援内容 おもちゃ・お菓子など提供
- 4月20日
団体名 村っこ物産館
支援場所 山田町 大浦漁村センター避難所
支援内容 炊き出し：山菜鍋 おにぎり 100食

- 4月10日
団体名 羽後交通職員有志
支援場所 大槌町かみよ稲穂館避難所
支援内容 炊き出し：きりたんぼ鍋・まんじゅう・がっこ 150食
- 4月12日
団体名 田沢湖水深委員会
支援場所 山田町ちびっ子公園
支援内容 駒ヶ岳温泉足湯提供 200人
- 4月13日
団体名 遊々楽々3とびあ
支援場所 山田町田の浜地区
支援内容 炊き出し：昼食そば 400食
- 4月14日
団体名 瀧神巧業
支援場所 山田町 大浦漁村センター避難所
支援内容 炊き出し：豚汁 おにぎり 150食